

第17回自作教材教具展 on 校内 Blog

第17回自作教材教具展（平成28年5月30日（月）から6月10日（金））が、校内 Blog 上で行われましたので紹介します。



聖火台

高等部運動会種目に使った聖火台を紹介します。聖火台の本体はダンボール箱ですが、一つのダンボール箱だけでは強度が無いので、同じ大きさのダンボール箱を上からはめて強度を増しています。上からはめたダンボール箱のふたになる部分に、新たにダンボールを切って貼り合わせ未広がりの方にデザインをちょっと考えて作っています。タフロープの炎を揚げるのにエアートランポリンの送風機を使いました。聖火台の中には一回り小さくしたダンボール箱を入れて上げ底にして、写真の通りに炎が揚がるように風力を調整する工夫をしています。タフロープが送風機に吸い込まれないようにネットを付けて、そのネットに勢いよく炎が揚がる位置にタフロープの束を付けてあります。



お寿司屋さんのガチャガチャ

生活単元学習「おみせやさん」で使った教材です。段ボールと牛乳パックとペットボトルを使って作りました。

お寿司屋さんに来てくれたお客さんに、帰りに回してもらいました。みんな興味津々でしたよ。何がでてくるかわからないって、楽しいですね。

中身はこんなお寿司のストラップです。キッチンペーパーやフェルトで作ってあります。



手作りペーパーブレスレット

- ・百円均一で売っている「紙バンド」を使います。
- ・作り方は、2種類の細長い紙を上下にジグザグに折り込んでいき、リングを作ります。
- ・折り込んでいく順番を考えたり、手先を細かく動かしたりすることに取り組みます。
- ・完成すると、手首に飾って友達に見せることができるので、意欲も沸いてきます。



踏んで楽しむ押笛（おしぶえ）♪

そだちの時間に使用している教材です。目印を踏むことで音が鳴ります。しっかりと足下を見ることや、かかとをつけることを目標にしています。目印の中身は写真のようになっています。手芸用品店に売っている押笛（おしぶえ）が入っていて、押すことで音が鳴ります。目印はマジックテープになっているので、自由に動かすことができます。



朝の会のお天気調べで使用している教材

朝の会のお天気調べで使用している教材です。
太陽：真ん中がスイッチになっていて、押すとふたの中に入れてあるセロファン製の赤い色がライトと混ざりピカーと赤く光ります。
曇：布の中に綿が入っており、ふわふわ感を出しています。触ると柔らかくてとても心地よい感触です。
傘：フェルトが貼ってあり、手触りはとてもよいです。柄の部分を持って降ると中に入ったビーズがザーザーと雨の音を出します。
どれも後ろには磁石がついていて黒板にくっきます。



グーでも持てるお助けアイテム

筆やマジック、鉛筆などを持つときのお助けアイテムです。手をぎゅっと握ることはできても、緊張が強く筆記具をいい角度で使えない場合に使用します。素材は「おゆるくん」というプラスチック粘土のようなもので、お湯につけると柔らかくなり、何度でも作りかえができます。子どもによって手の大きさが違うので握りの太さを変えたい場合や、筆やペンなど差し込むものの太さが違う場合には、簡単に経済的に作り直せます。100円ショップの手芸用具コーナーにおいてあります。



雲を作ろう

小学部6年生Cスタディでは、遠足で行く名古屋市科学館の事前学習で色々な科学実験に取り組みました。今回は、そのうちのひとつ、雲を作る実験を紹介します。ホームセンターや家にある身近な物を使って、簡単に雲を作ることができます。

材料は、ペットボトル（写真では1.5リットルですが、500ミリリットルの方が簡単にできます）、ヒビスコール（アルコール）、炭酸キーパー（ホームセンターに売っています。炭酸飲料の炭酸が抜けないようにするための道具です）です。

これが炭酸キーパーです。ホームセンターで600円程度で売っています。

①ヒビスコールをペットボトルの底1cmぐらいの所まで入れ、炭酸キーパーで蓋をします。

②炭酸キーパーをひたすら握って空気をペットボトルに入れていきます。ペットボトルや炭酸キーパーが固くなるまでがんばります。このとき、ペットボトルを振って、空気中にヒビスコールを溶かすようにすると、うまくできます。

③炭酸キーパーのキャップをはずすと、「ポン」と音がして雲ができます。

ペットボトルの中に水を入れてもできますが、ヒビスコールの方が簡単にできます。突然できた雲に、子どもたちは興味津々でした。